

## 第 44 回 一宮市地域公共交通会議議事録

### 【開催日時】

2025 年 1 月 24 日（金） 9：30～12：00

### 【開催場所】

オリナス一宮 3 階 多目的ホール

### 【傍聴人】

6 人

### 【議事内容】

#### 1. 開会

#### 2. 議題

##### 報告事項

#### (1) 市内バス路線の利用実績について

- ・事務局より資料説明
- ・一宮・イオン木曾川線の利用者数について令和元年度の同月（4月～12月）を越える結果となった。令和6年度は夏が大変暑い状況にあったことが影響していると考える。特に、一宮・イオン木曾川線は7月、8月に好調である。他の路線と比較し、夏の利用状況が良い。（名鉄バスより追加説明）

##### 《意見・要望》

- ・イオンモール木曾川の見解も機会があれば聞いてみたい。

#### (2) 令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統）

##### 事業評価について

- ・事務局より資料説明

《質疑応答》

- ・指標の経常収支率とは、どのような数値か。  
→バスを運行するための費用である経常費用と運賃収入などの経常収益から算出している。(事務局より回答)
- ・経常収支率 40%は良い値か。  
→40%は決して良い数値ではないが、愛知県内でみると比較的良い数値である。  
(会長より回答)
- ・県への提出資料は、ホームページ等で公開されているのか。  
→県のホームページで公開している。(愛知県都市・交通局交通対策課より回答)

《意見・要望》

- ・一宮・イオン木曾川線について、運賃改定の記載がある。会社として全体的に運賃改定を行ったが、全ての路線が改訂されたわけではなく、一宮・イオン木曾川線は200円のまま運賃据え置きとなっている。誤解のないよう「名鉄バス全体として」と追記していただきたい。(P.8)
- ・事務局からの説明の通り、令和6年度の事業評価については、県でとりまとめ、国へ報告する予定である。県としては、運行事業者、沿線市町村にコメントを記載いただいております、簡潔にまとめて提出している。通常はこのような会議に諮ってから、県へ資料を提出いただきたいと思いますようお願いしている。ただし、県の会議は1月15日に終わっているため、今回は報告という形となった。
- ・一宮市の地域間幹線系統については、市内で完結しているため、市の会議で議論してほしいとの県の意向であり、市の会議で議論すべきと考える。本来は市の地域公共交通会議での協議事項であり、順番が逆となっている。

- ・次年度からは、この会議で議論を経て、国へ資料提出をお願いしたい。
- ・県内の事業者独自路線は8～9割まで利用者が回復している。一宮市は市域も広い中で、ここまで利用者数が回復しており、頑張っていたと考えている。  
また、i-バス木曾川・北方コースについては、輸送量が15人以上と補助要件に達しており、安心している。しかし、ギリギリのところであり、路線再編や利用促進を図っていただきたい。
- ・利用者数については、コロナ禍前まで回復した路線があり、全国的に見ても良い方と考えている。

■一宮市公共交通計画の評価等結果については意見なし。(P.12)

### (3) 第3次一宮市公共交通計画の事業実施状況について(中間報告)

#### ① i-バス木曾川・北方コースの見直しについて

- ・事務局より資料説明
- ・住民懇談会には、大学のスタッフや学生も出来るだけ参加しており、実現に向けて支援している。(会長より追加説明)
- ・木曾川町連区では名古屋大学の協力を得て、昨年7月、9月、11月と住民懇談会を実施した。地域の公共交通の利便性をしっかり上げていく、それを地域の活性化につなげていこうという理念のもと活動している。また、11月23日の懇談会時に、地域で交通協議会を立ち上げることを決定した。現在は役員候補者32～33名を集め、どういう組織・体制で実施するのがよいか詰めている。千秋町連区にも協議会があり、そこでは、スポンサー収入もあると聞いている。そのように、スポンサーを募集するなども考えていく必要があると考える。次回開催予定の2

月 8 日に交通協議会のメンバーでしっかりと議論をしていきたいと考えている。

(副会長より追加説明)

- ・木曾川町連区の 11 月 23 日の懇談会前に、地域で交通協議会の設立を決めていただいた。非常にありがたい。地域で取り組むのは大変であるが、ついに実現する。議論だけではなく、スポンサー募集まで考えていただいております。千秋町や萩原町・大和町と同じように進めていけると考えている。ただし、北方町はこのレベルまで議論に達していない。木曾川・北方コースであるため、北方町連区も熟度があがってこない、地域全体としては良くならないため、継続して取り組みたい。(会長より追加説明)
- ・千秋町の交通協議会について、現在の i-バスを運行した時には、既に交通協議会が設置されていた。しかし、現在休止状況であると認識している。ただし、協賛金等については、千秋町連区にご協力いただいている。(事務局より追加説明)

#### 《質疑応答》

- ・千秋町コースは収支率が他路線と比較して高いが、多くの利用があるのか。  
→千秋町コースは、年間利用者数も 4 万人を超えているが、協賛金収入があり、そのため収支率が改善されている。

#### 《意見・要望》

- ・資料 3-①の見直しの目的について、利用者数の増加、収支率の向上と記載されているが、それは目的ではない。目的としては、地域での生活がよくなり、そのために使える公共交通を整備することである。このような考え方で見直しを実施するのであれば、とんでもないことであると苦言を呈したい。(P. 14)
- ・住民懇談会における議論については、非常に良いことであると考えている。

・玉ノ井駅とバス停が離れているため、バス停に地図（駅の位置）を掲載してほしいとの要望があるが、逆のことも言える。玉ノ井駅は結節点といえる立場であり、無人駅であるが、駅でのバス停案内も検討していきたい。市でもご検討いただきたい。（P. 16）

・i-バスミニの現状について、名鉄タクシーからこれ以上利用が増えた場合は対応が厳しいと聞いている。また、不便で使ってもらえない交通は導入しても意味がなく、そこまでの議論は煮詰まっていない。現在のi-バスミニを導入するのは無理がある。

→i-バスミニの利用が増えた場合の対応について、この場で結論は出せず明言できない。（愛知県タクシー協会より回答）

・名鉄バス全体として、交通事業者として、路線の再編や見直しにおいては、3つのポイントを重点として考えている。

①地域の方の利便性の向上、確保

②（バスの乗務員、お客様、地域の方も含めた）安全性の確保

事務局より横断歩道の議論の説明があった。カーブミラー、停止線、電柱なども含めての議論であり、道路管理者、警察などとの調整が必要である。

③定時制の確保

これらのポイントを踏まえ、地域の方の協力も含め、コースの見直し・議論をお願いしたい。

## ② i-バス尾西北コースの見直しについて

・事務局より資料説明

《質疑応答》

- ・12月の住民懇談会に出席した。その中で、開明駅へもアクセスしたいと意見があったが、その内容については資料に記載がない。この意見は見送りという認識か、教えていただきたい。

→市として提示した案を示した資料であり、今後も住民の皆さまと議論していきたい。

(事務局より回答)

#### 《意見・要望》

- ・尾西北コースでも議論がはじまった。ただし、エコハウス停留所の利用状況が分かっていない時点で、この案を提示することはナンセンスである。乗換利用であれば、木曾川庁舎や一宮西病院での乗り換えも考えられる。木曾川庁舎まで延伸できれば、尾西エリアの方のイオン利用も考えられる。そのため、エコハウス停留所での乗降調査だけではなく、利用目的まで調査をお願いしたい。
- ・起地区において、名鉄バスにより一宮駅まで行くのは便利であるが、一宮西病院へのアクセスも便利になることが重要である。これは、名鉄バスと競合しないと考える。
- ・バス車両が大きいのではないか、もう少しコンパクトなバスの方が乗り降りしやすく、右左折しやすいのではないか。  
→バスの大きさは、費用的にはあまり関係ない。また、入っていける道路等についてもほとんど変わらない。反対に小さいバスの方が、バリアフリー対応ができておらず車内環境が悪い場合もある。そのため、車両を小さくすることが先ではなく、どこを走りたいから小さくする必要があると考えていただきたい。
- ・開明駅、玉ノ井駅などは電車本数が30分に1便であり、駅へ乗り入れた場合、利便性向上が図れるわけではない。そのあたりも、議論する必要がある。乗り入れてほ

しい、運行してほしいという理由ではなく、何がしたい、目的はこれ、という議論をしたい。ご指摘いただいた内容も踏まえ、今後は議論が必要と考える。

### ③光明寺線、丹陽線の延伸に向けての協議の状況について

- ・事務局より資料説明

#### 《質疑応答》

- ・10年前から把握している内容であり、全く議論は進んでいない状況である。他自治体からの要望について気になるが、どのような要望があるのか。

→岩倉市から名鉄バスへ要望をいただいている。ちょうどこの地区は市境であり、岩倉市側の工業団地・物流センターが整備されており、企業立地がはじまった。

そこへのアクセスが創出できないかといった議論がある。(名鉄バスより回答)

- ・22号のアンダーパスの通行規制状況はどうか。

→通行規制について、大雨、梅雨の時期においては、社内運行エリアの中でも発生が多い場所である。具体的に、年間10回程度、2日連続などの場合もある。(名鉄バスより回答)

#### 《意見・要望》

- ・丹陽の方は稲沢駅へアクセスしたくても、稲沢市からの関心はない。また、延伸しても赤字路線になるのが見えている。むしろ岩倉市が要望している路線と調整するなど考えられる。丹陽においても、対話が重要である。

- ・光明寺線について、JR木曾川駅に乗り入れると収入が減収になるが、近い距離で沢山の方に移動してもらえる方がよい。そのような補助の使い方であれば、良いのではないかと。ただし、JR木曾川駅へ乗入れる場合は、道路が狭いため小さい車両

で運行することになるが、その場合は積み残しが発生する可能性もある。週末は体育館利用者の集団利用が考えられる中で、前向きな議論を進めたい。

#### ④一宮おでかけバス手形の取扱いについて

#### ⑤一宮市版 MaaS サイト「イッテミーヤ」について

- ・事務局より資料説明

《意見・要望》

- ・あわせて宣伝していく必要がある。
- ・金額の設定が難しく、これから1年間の議論となる。どのように使っていただくか、議論していく必要がある。

#### ⑥新たな移動手段導入に向けたルールづくりについて

- ・事務局より資料説明

《質疑応答》

- ・新たな移動手段とは何か、明確な定義はあるのか。例えば、i-バスミニの目的地を増やす場合は、これに該当するのか。

→定義があいまいな部分があり、次回説明時には、一からつくりあげる交通、既存交通の見直しなども含めて、多様なケースを想定して説明したい。(事務局より回答)

《意見・要望》



- ・交通協議会を設立しないとできないことを明確化する必要がある。検討するだけなら良いが、具体的に進める時には協議会設立が必要など、そのあたりの記載が必要である。地域としてはハードルが高いため、最初の議論は懇談会とし、実際の見直しにおいては協議会設立が必要という可能性もある。そのあたりも含めて議論していきたい。協議会設立によって良いことがあるなど、利点の説明、具体の説明が必要となる。各連区の皆さまにおいても、ご議論頂けると良い。

#### (4) 一宮市バス運行業務事業者選定結果について

#### (5) デジタルチケット導入に伴う、市役所窓口での紙券販売の中止について

#### (6) 『小中学生 i -バス無料ホリデー』の実施について

- ・事務局より資料説明

#### 《質疑応答》

- ・『小中学生 i -バス無料ホリデー』の対象について、3月時点で小中学生ということか。  
→そのとおりである。(事務局より回答)

#### 《意見・要望》

- ・本来1年契約は交通事業者にとって大変な契約であるが、事情をご理解いただいと捉えている。

### 3. その他

#### (1) i -バス木曽川・北方コースの迂回運行について

- ・事務局より資料説明

#### 《意見・要望》

- ・バス停が遠くなって利用者が離れていることも考えられる。そのため、運行ルートが戻るときにも、しっかりと周知をお願いしたい。

## (2) 「こども manaca おでかけキャンペーン」ご案内

- ・将来の利用者であるこども、子育て世代をターゲットとして、潜在需要の創出を図り、幼いころから公共交通に親しみを持ってもらい、沿線地域の活性化につながることを目的に実施している。(名古屋鉄道より説明)

## (3) その他

- ・昨年に一宮市において地域バス活性化のシンポジウムを開催したが、同じシンポジウムを2月28日に岐阜市で開催予定である。地域が若干異なるが、乗務員不足等は共通問題であるため、ご関心あれば参加いただきたい。また、木曾川・北方コース、尾西北コースについては、次年度からの運行となっており、重点的に進めていくことになるため、協力をお願いしたい。(会長より説明)

## 4. 閉会